

## 第2号議案 2025年度事業計画案および収支予算案

### I. 2025年度事業計画案（令和7年3月1日～令和8年2月28日）

#### 1. 定期刊行物および資料の刊行

日本土壤肥料学雑誌（第96巻第2号～第6号および第97巻第1号の計6冊、A4判）、Soil Science and Plant Nutrition（Vol.71, No.2～No.6、Vol.72, No.1の計6冊、A4判）を刊行する。また、2025年度新潟大会に際して日本土壤肥料学会講演要旨集（第71集）を電子版として刊行する。

#### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

##### 1) 「土と肥料」の講演会

2025年5月17日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館大会議室において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「水田土壌の窒素肥沃度と施肥管理」とし、講演者と演題は、森次 真一（岡山県農林水産総合センター）「可給態窒素量の圃場間差を活用した水稻の施肥設計の考え方」、一ノ瀬 侑理（農研機構農業環境研究部門）「日本の水田土壌における可給態窒素レベルを規定する要因」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

##### 2) 100周年事業シンポジウム

###### (1) テーマシンポジウム

土壤肥料学分野の具体的な研究成果や技術の叡智、学問としての面白さをこれから専門分野に進んでくる高校生や大学初年次生に向けて、また、一般向けに分かりやすく発信し、持続可能な社会構築に貢献することを目指して、会員応募企画に基づき公開シンポジウムを開催する。

2025年度シンポジウムでは「Soil Health とは？：土壌の健康の理解・維持向上・共有」をテーマとして将来の土壌の健康の維持向上のための道筋を議論する。なお、本シンポジウムは日本学術会議（土壤科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会）と共催する。

###### (2) 支部大会シンポジウムの限定公開

支部大会において開催した学会創立100周年の記念シンポジウムの動画を期間限定で学会 YouTube チャンネルに公開する。

##### 3) 2025年度年次大会

2025年度新潟大会は、9月17日（水）～19日（金）に新潟大学五十嵐キャンパスにおいて一般講演の口頭発表、ポスター発表およびシンポジウムを対面方式で行う。一般講演では、若手口頭発表優秀賞および若手ポスター発表優秀賞を選考し、表彰する。また、高校生による研究発表会を行い、優秀発表を表彰する。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員から公募し、これを基に部門長会議で検討して設定する。

学会賞等授賞式では、第 70 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 30 回同技術賞 2 名、第 43 回同奨励賞 5 名、第 14 回同技術奨励賞 2 名、日本土壌肥料学雑誌論文賞 2 件、SSPN Award 1 件に各賞を授与する。各賞の受賞者および受賞業績は以下の通り。

#### 第 70 回（2025 年度）日本土壌肥料学会賞

- ・ 大津（大鎌）直子：グルタチオン分解経路の解明を通じた植物のイオウ代謝制御研究
- ・ 程 為国：土壌・植物系における炭素・窒素の動態に及ぼす土地利用管理と気候変動の影響に関する研究
- ・ 三宅親弘：光合成の酸化障害回避メカニズムの解明と植物栄養診断法の開発

#### 第 30 回（2025 年度）日本土壌肥料学会技術賞

- ・ 徳田進一：茶園・野菜畑における環境保全型土壌管理技術の開発
- ・ 林 哲央：積雪寒冷地の施設栽培における土壌診断および肥培管理技術の高度化とその利活用

#### 第 43 回（2025 年度）日本土壌肥料学会奨励賞

- ・ 佐藤 匠：アーバスキュラー菌根菌の有機態リン酸可給化機構と農業利用に関する研究
- ・ 鈴木一輝：農耕地における土壌微生物生態に関する研究
- ・ 西垣智弘：サブサハラアフリカにおける土壌保全と作物生産性向上に資する肥培管理に関する研究
- ・ Nguyen Thanh Tung：耕畜連携水田における養分収支と土壌肥沃度維持に関する研究
- ・ Raj Kishan AGRAHARI：遺伝子発現データを使ったゲノムワイド関連解析と化学遺伝学による新規アルミニウム応答機構の発見

#### 第 14 回（2025 年度）日本土壌肥料学会技術奨励賞

- ・ 鈴木基史：ムギネ酸類誘導体の実用化研究
- ・ 和田 巽：土壌診断に基づく適正施肥を推進するための生産現場適用技術の開発

#### 日本土壌肥料学雑誌論文賞

- ・ 宇野功一郎、中尾 淳、奥村雅彦、山口瑛子、小暮敏博、矢内純太：放射性セシウム捕捉ポテンシャルから推定される  $Kd$  値と実測  $Kd$  値との誤差要因の解明 日本土壌肥料学雑誌 第 94 巻第 5 号 376~384 (2023)
- ・ 森下瑞貴、石塚直樹：ドローン空撮画像の教師なし分類による圃場内土壌区分図の作成 日本土壌肥料学雑誌 第 94 巻第 4 号 254~262 (2023)

#### SSPN Award

- ・ Yuri Ichinose、Yuta Ise、Takashi Kanda、Yuji Maejima、Tetsuo Yagi、Yoshinori Takahashi、Shinpei Nakagawa、Kiyomi Kamiyama、Hirokuni Iwasa、Ayako Kadokura(Kaneko)、Yoshinori Ohashi、Shigeo Komatsu、Minoru Matsuyama、Yusuke Hirayama、Toshiyuki Mochida、Kayo

Mitsui, Takahiro Takimoto, Hiroshi Obara, Hideo Kubotera, Yusuke Takata : Factors controlling available soil nitrogen in Japanese paddy fields *Soil Sci. and Plant Nutr.* Vol 69(5-6), 303-314 (2023)

学会賞等授賞式に引続き、第 70 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 30 回同技術賞 2 名、第 43 回同奨励賞 5 名、第 14 回同技術奨励賞 2 名の受賞記念講演および Victor Okechukwu Chude USS 会長による特別講演を行う。また、論文賞 2 件および SSPN Award 1 件の受賞者については、受賞記念ポスターを展示する。

受賞記念講演および特別講演に引続き、ANA クラウンプラザホテル新潟において懇親会を開催する。

#### 4) 支部大会等

- ・北海道支部：2025 年度北海道支部秋季支部大会・支部総会(12/3、かでの 2・7 大会議室、札幌市)を開催する。また、評議員会(6 月上旬、11 月下旬メール会議)、野外巡検を予定している。
- ・東北支部：2025 年度東北支部大会 (7/9~10、コラッセふくしま、福島市) を、通常年度と同様に夏の土壌肥料協議会と合わせて開催する。また、支部評議員会、支部総会を合わせて開催する。
- ・関東支部：2025 年度関東支部大会 (11/14、高崎市または前橋市)、支部評議員会、支部総会 (11/13、オンライン) を開催する。
- ・中部支部：2025 年度中部支部大会 (11/10~11、富山県民会館、富山市)、支部評議員会、支部総会 (11/10~11、富山県民会館、富山市) を開催する。また、土壌教育活動事業 (7 月下旬と 8 月下旬、豊田市自然観察の森、豊田市) を行う。
- ・関西支部：2025 年度関西支部講演会、支部役員会および総会 (2025 年 12 月上旬、島根大学生物資源科学部、松江市) を開催する。また講演会翌日には関西土壌肥料協議会シンポジウムを開催する。
- ・九州支部：2025 年度九州支部例会 (熊本県で実施予定)、支部常議員会、支部総会 (支部例会の会期中) を開催する。また、九州支部賞募集、支部活動助成、支部長および支部常議員の選挙を行う。
- ・支部長連絡会：2025 年度支部長連絡会は、2025 年度新潟大会期間中に開催し、支部間および本部一支部間の情報および意見交換を行う。

#### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第 71 回日本土壌肥料学会賞、第 31 回同技術賞、第 44 回同奨励賞、第 15 回同技術奨励賞、第 15 回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

#### 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・日本農学会に協力し、日本農学会シンポジウムのテーマ企画および話題提供者の推薦を行う。
- ・日本学術会議の発信情報を、学会 HP などを通じて会員へ提供するとともに、土壌科学分科会、IUSS 分科会などと協力して IUSS の諸活動に連携する。
- ・ESAFS サポートオフィスを通じて関連情報を発信する。
- ・本学会が加盟（オブザーバー加盟を含む）している地理学連携機構、福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会、男女共同参画学協会連絡会を通じて関連学協会と連携する。
- ・第37回環境工学連合講演会（5/27、東京都、オンライン併用）を共催し、本学会の中村真人会員が「メタン発酵を中核とした資源循環システムの構築」を講演する。
- ・第61回アイソトープ・放射線研究発表会（7/3～5、東京都）を協賛する。
- ・第35回環境工学総合シンポジウム2025（7/18～21、北見市）を協賛する。
- ・アメリカ土壌科学会「Kirkham 会議」（8/19～22、飯舘村）を後援する。

## 5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：2025 年度総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を開催する。
- ・財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、中長期視点から財政収支バランスの改善策を検討し、理事会へ提案する。
- ・国際対応：①IUSS、ESAFS を中心に情報収集・発信および渉外対応を行う。②共催予定の日本開催国際会議の開催を支援する。
- ・部門長会議：①年次大会におけるシンポジウム企画応募案の検討および一般講演プログラムの編成、優秀発表賞の選考を行う。②会誌進歩総説、欧文誌特集の企画を検討する。
- ・土壌教育委員会：①新潟大会において高校生による研究発表会を実施する。②教員研修およびその他の普及事業を行う（時期および場所未定）。③第9部門と連携した各種事業を行う。④「みんなが知りたいシリーズ 土と肥料の疑問 50」編集作業を行う。⑤Soil Judging Contest 関連事業を行う。
- ・広報：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②学会公式 SNS による情報発信を継続する。③土壌教育委員会とともにエコプロ 2025 にブースを出展する。
- ・学会創立 100 周年事業準備委員会：2027 年の 100 周年に向けた事業企画を検討・立案し、理事会に提案する。

## 6. その他

本学会の目的達成のため、以下の事業を行う。

- ・外部の顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・100 周年事業の推進、若手会員支援の一助とするため、寄付募集を継続する。
- ・会員確保の一環として 2023 および 2024 年度に行った年次大会への招待などの賛助会員へ提供するサービスを継続する。